

2019年度「生活者としての外国人」のための日本語教室空白地域解消推進事業
地域日本語教育スタートアッププログラム 報告書

団体名 宮古市国際交流協会 (岩手県)

1. 当該地域の情報 (2020年1月現在)

地域の課題	宮古市における国際交流・国際理解活動、在住外国人支援は、民間を主体に行われ、各々が外国人とのつながりを作ってきたが、互いの活動を連携し情報共有する場が不足していた。特に在住外国人支援にあたっては、ボランティアに頼ることが多く、行政を含めた連絡体制が確立していないことが課題であった。東日本大震災の際、外務省や各国領事館からの安否確認対応が混乱した経験からも、窓口の一本化・各機関の連携の必要性を感じている。 日本語教育に関しては、ボランティア等の個人指導が中心となっており、在住外国人が積極的に参加できる教室の開設・継続的な運営、学習支援に係る人材確保が課題である。 また、インバウンド誘致の取組みを始めている中で、インバウンド向けの多様な宣伝方法の検討、インバウンド受入れ体制を確立する必要がある。
在住外国人数 外国人比率	217人(令和元年12月31日現在) 0.4% ※地域の人口:51,744人(令和2年1月1日現在)
在留外国人の 状況	【主な国籍】 ※上位5件 フィリピン、中国、韓国・朝鮮、ベトナム、ミャンマー 【在留資格】 ※上位5件 技能実習、永住者、特定活動、特別永住者、教育 【滞在年数・在留期間などの状況】 在住外国人数217人のうち、技能実習は119人となっており、半数以上を占める。特定活動は、昨年の3倍の数値となっている。
在住外国人の 日本語教育の現状	平成12年3月から「オーシャンズ宮古国際交流倶楽部」というボランティア団体が、在住外国人の需要に応え、日本語教室を開設。平成28年3月まで週1回の教室のほか、家庭訪問での個別指導を行ってきたが閉鎖。平成28年5月からは個人ボランティアが、主にALTの要請により「日本語教室『さくら』」の名称で個別指導を開始。平成30年4月から、当該事業を活用し、宮古市国際交流協会が主体となった2パターンの形態の教室開催を試行(①「さくら」を市協会事業として定期開催。これまでの個人ボランティア活動実績を活かしつつ、運営体制を確立・強化。②「にほんご広場」というテーマ設定型日本語教室を年数回開催)。一定の形が見えてきたことから、本格運営に移行している。

2. 事業の内容

本プログラム取組年数	3 年目			
事業の目的	「住んでよし、訪れてよしの宮古～宮古を世界に売り出そう～」 ○様々な背景を持つ在住外国人に、生活に身近で地域とつながる日本語を学習できる場を提供すること。 ○日本人住民に、交流などを通じた多文化を理解する機会を提供すること。 ○在住外国人が参画した地域一体の外国人観光客の誘致・受入れ体制を作ること。			
事業の概要	①現状把握・分析 ・在住外国人の実態調査(日本語教育等のニーズ調査)の継続 ※県協会事業と連携し、外国人労働者の実態把握を実施 ②実施体制の確立 ・日本語教室「さくら」と「にほんご広場」の開催、実施体制の確立 ・個別型学習の機会提供、指導者派遣型の検討 ・行政等関係機関との連絡調整 ③人材発掘・人材育成 ・日本語指導に係る人材(交流サポーター)の募集・発掘 ・交流サポーター研修の実施、サポーター同士のネットワーク強化 ④周知・啓発 ・宮古市国際交流協会FB等各種媒体での情報発信(市広報やライングループの活用) ・みやこハーバーラジオ(コミュニティFM)の番組「多文化共生ラジオ」による情報発信 ・宮古市国際交流協会各事業との連携・PR			
事業の対象期間	2019年4月～2020年3月			
前年度の実績 (2年目以降の団体のみ記載)	①現状把握・分析:在住外国人の実態調査(ニーズ調査) ②実施体制の検討:日本語教室「さくら」(全68回)、「にほんご広場」(全4回)の開催 ③人材発掘・人材育成:交流サポーターの会(全6回)開催、募集 ④周知・啓発:宮古市国際交流協会各事業を通じた在住外国人の把握・連携、日本人への周知			
担当コーディネーター	氏名	所属	職名	担当する役割
	小向 博子	宮古市国際交流協会	事務局次長	①②③④
	佐々木 匡人	オーシャンズ宮古国際交流倶楽部	事務局長	①②③
	板橋 麻里子	日本語教室「さくら」	発起人	①②③
	中嶋 エスペルリタ アン	エミーズ英会話教室	オーナー・インストラクター	①②③
担当アドバイザー	氏名	所属	職名	継続・新規の別
	石井 恵理子	東京女子大学	教授	継続(3年目)
	松岡 洋子	岩手大学	教授	継続(3年目)
	菊池 哲佳	仙台観光国際協会	交流係長	継続(3年目)

3. 日本語教室の設置に向けた検討体制

（１）地域における日本語教育の実施に向けた検討体制

検討体制

- 宮古市国際交流協会を主体に、アドバイザーによる助言をもとに、コーディネーターと連携しながら、教室を開催する。
※2019年度から市の組織改編に伴い、市協会事務局が宮古観光文化交流協会から市企画課(国際交流室)に変更。
市企画課も主体として関わるもの。
- 日本語教室は、能力別(目的別)に教室型で個別指導を行う「さくら」と生活に密着したテーマによる日本語交流活動の「にほんご広場」の2本立てを確立する。そのほか、個別型や派遣型を検討する。
- 日本語教室は、市協会の各種事業と連携し、事業効果を高めるものとする。
- 交流サポーターには、にほんご広場の参加から始め、教室型の日本語教育の場で補佐的な役割を経験しながら、学習支援者の1人となるよう促す。
- 在住外国人住民の実態調査(日本語教育等のニーズ調査)を行いながら、教室やイベントへの参加を通じて、社会参画を促す。
※インバウンド(外国人観光客)受入にあたり、外国人住民に協力を依頼。

(2) 日本語教室の実施に向けた事業運営体制図

地域の機関・団体 との連携体制	○日本語教室全体コーディネート:市協会 ○「さくら」企画・運営:市企画課、市協会、佐々木匡人、板橋麻里子、中嶋エスペルリタアン ○「にほんご広場」企画・運営:市企画課、市協会、佐々木匡人、板橋麻里子、中嶋エスペルリタアン ○日本語指導助言:佐々木匡人、板橋麻里子 ○在住外国人との調整:中嶋エスペルリタアン ○各種媒体での情報発信:市企画課、市協会 ○交流サポーター(ボランティア)の募集・研修:市企画課、市協会、佐々木匡人、板橋麻里子、中嶋エスペルリタアン ○日本語教室運営・指導者育成に関する助言:県協会 ○実態調査(ニーズ調査):市企画課、市協会、佐々木匡人、板橋麻里子、中嶋エスペルリタアン ○行政等関係機関との調整窓口:市企画課 ※「にほんご広場」講師招へい(市各課) ○社会参画にあたる調整:市企画課 ※インバウンド(外国人観光客)受入に関しては市観光課と連携			
	組織・団体・機関名	担当部局	職名	担当者名
	宮古市国際交流協会	事務局	事務局員	伊藤 祥子
	〃		地域日本語教育 コーディネーター	佐々木 匡人
	〃		地域日本語教育 コーディネーター	板橋 麻里子
	〃		地域日本語教育 コーディネーター	中嶋 エスペルリタ アン
	宮古市 (宮古市国際交流協会)	企画部企画課国際交流室 (事務局)	室長 (事務局長)	三上 巧
	〃	〃	主任 (事務局次長)	小向 博子
	〃	産業振興部観光課	もてなし観光係長 (事務局員)	松浦 宏隆
		産業振興部観光課 兼企画部企画課国際交流室	主任 (事務局員)	水車 淳子
(公財) 岩手県国際交流協会				

4. 具体的な取組内容

(1) 年間を通じた取組内容

年月	主な取組内容	コーディネーターの主な活動	アドバイザーの来訪
2019年 4月	■日本語教室「さくら」開催4回 ■打合せ4回(「さくら」の進め方検証)	・「さくら」開催運営 ・実施体制検討 ・参加者声掛け	
2019年 5月	■日本語教室「さくら」開催4回 ■打合せ1回(「さくら」の進め方検証) ■交流サポーターの会2回	・「さくら」開催運営 ・実施体制検討 ・参加者声掛け ・交流サポーター(学習支援ボランティア)確保、育成	(メール:4月活動報告)
2019年 6月	■日本語教室「さくら」開催4回 ■にほんご広場・ごみの出し方研修開催 ※「さくら」時間内 ■打合せ1回(ごみの出し方研修協議) ■交流サポーターの会3回 □市協会各種事業:みやこタウン出展(スタッフとして在住外国人活用)	・「さくら」開催運営 ・にほんご広場企画、運営 ・実施体制検討 ・参加者声掛け ・交流サポーター(学習支援ボランティア)確保、育成	(メール:5月活動報告)
2019年 7月	■日本語教室「さくら」開催4回 ■交流サポーターの会3回 □市協会各種事業:ナミビア料理講習会(講師として在住外国人活用)	・「さくら」開催運営 ・実施体制検討 ・参加者声掛け ・交流サポーター(学習支援ボランティア)確保、育成	(メール:6月活動報告)
2019年 8月	■日本語教室「さくら」開催4回 ※みやこ秋まつりの手踊り練習 ■交流サポーターの会2回	・「さくら」開催運営 ・実施体制検討 ・参加者声掛け ・交流サポーター(学習支援ボランティア)確保、育成	(メール:7月活動報告)
2019年 9月	■日本語教室「さくら」開催4回 ■打合せ1回(半年間の振り返り) □市協会各種事業:みやこ秋まつり参加(宮古文化体験、日本人市民との交流)	・「さくら」開催運営 ・実施体制検討 ・参加者声掛け ・交流サポーター(学習支援ボランティア)確保、育成	(メール:8月活動報告) (9/9月)スカイプ参加 ★日本語教育の動向について 情報提供、教室の在り方に対する アドバイス
2019年 10月	■日本語教室「さくら」開催3回 ※避難勧告発令により1回休み ■打合せ1回(災害時研修協議、学習カルテ協議、フォトコンテスト協議)	・「さくら」開催運営 ・にほんご広場企画 ・実施体制検討 ・参加者声掛け ・交流サポーター(学習支援ボランティア)確保、育成	(メール:9月活動報告)
2019年 11月	■日本語教室「さくら」開催3回 ■にほんご広場・災害時研修開催 ■にほんご広場・第1回Cool! MIYAKO-jinフォトコンテスト写真講座の開催※「さくら」時間内 ■打合せ2回(災害時研修振り返り、災害時対応等協議、日本語講師派遣協議、フォトコンテスト協議)	・「さくら」開催運営 ・にほんご広場企画、運営 ・実施体制検討 ・参加者声掛け ・交流サポーター(学習支援ボランティア)確保、育成	(メール:10月活動報告) (11/3日来訪) ★災害対応アドバイス、研修 の在り方に対するアドバイス
2019年 12月	■日本語教室「さくら」開催4回 ■にほんご広場・第1回Cool! MIYAKO-jinフォトコンテスト発表会・審査、授賞式(忘年会)開催※「さくら」時間内 ■打合せ1回(書き初め研修協議、日本語学習個別マッチング協議、スピーチコンテスト協議)	・「さくら」開催運営 ・にほんご広場企画、運営 ・実施体制検討 ・参加者声掛け ・交流サポーター(学習支援ボランティア)確保、育成	(メール:11月活動報告)
2020年 1月	■日本語教室「さくら」開催3回 ■にほんご広場・書き初め研修開催 ■打合せ1回(日本語学習個別マッチング協議)	・「さくら」開催運営 ・にほんご広場運営 ・実施体制検討 ・参加者声掛け ・交流サポーター(学習支援ボランティア)確保、育成	(メール:12月活動報告)
2020年 2月	■日本語教室「さくら」開催3回 ※新型コロナウイルス感染拡大防止のため1回休み ■打合せ1回(来年度事業協議)	・「さくら」開催運営 ・にほんご広場企画 ・実施体制検討 ・参加者声掛け ・交流サポーター(学習支援ボランティア)確保、育成	(メール:1月活動報告) (2/3月)スカイプ参加 ★来年度事業に向けたアドバ イス
2020年 3月	■打合せ1回(今年度まとめ協議) ※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、日本語教室「さくら」3回、にほんご広場・第2回にほんごスピーチコンテスト中止	・実施体制検討	(メール:2月活動報告) (3/10月)スカイプ参加 ★事業の総括

(2) 立ち上げた日本語教室の詳細

教室の名称		日本語教室「さくら」					
外国人参加者について		[国籍]アメリカ、ベトナム、マレーシア、インドネシア、オーストラリア、中国、ジャマイカ、フィリピン [属性]ALT、日本人の配偶者、技能実習生等			参加者数 (内 外国人数)		受講者192名 支援者216名 (コーディネーター89名、交流サポーター等ボランティア127名)
開催時間数		総時間 43時間			内訳 1.5時間 × 6回 + 1時間 × 34回		
目標		・ 受講者の希望に沿った日本語学習の場とすること。					
実施内容							
月	開講日時	時間数	場所	受講者数	内容	授業概要	支援者数
4	8日(月)19:00-20:30 13日(土)11:00-12:30 15日(月)19:00-20:30 22日(月)19:00-20:30	6	市民交流センター	18	個別対応	※受講者の要望に合わせた個別対応(例:日本語能力試験勉強、テキスト利用初級日本語) ・リスニングゲーム(NHKニュースの読み上げ)	コーディネーター11名 交流サポーター等ボランティア7名
5	13日(月)19:00-20:30 20日(月)19:00-20:00 25日(土)11:00-12:00 27日(月)19:00-20:00	4.5	市民交流センター	13	個別対応	※受講者の要望に合わせた個別対応(例:日本語能力試験勉強、テキスト利用初級日本語) ・聞き取りビンゴゲーム	コーディネーター6名 交流サポーター等ボランティア13名
6	3日(月)19:00-20:00 8日(土)11:00-12:00 10日(月)19:00-20:30 24日(月)19:00-20:00	4.5	市民交流センター	23	個別対応	※受講者の要望に合わせた個別対応(例:日本語能力試験勉強、テキスト利用初級日本語) ・今月の歌:さんぽ ・24日:にほんご広場・ごみの出し方研修実施	コーディネーター9名 交流サポーター等ボランティア12名
7	8日(月)19:00-20:00 13日(土)11:00-12:00 22日(月)19:00-20:00 29日(月)19:00-20:00	4	市民交流センター	24	個別対応	※受講者の要望に合わせた個別対応(例:テキスト利用初級日本語、漫画表現の確認) ・今月の歌:上を向いて歩こう	コーディネーター9名 交流サポーター等ボランティア13名
8	5日(月)19:00-20:00 19日(月)19:00-20:00 24日(土)11:00-12:00 26日(月)19:00-20:00	4	市民交流センター	16	個別対応	※受講者の要望に合わせた個別対応(例:テキスト利用初級日本語、オノマトペカード) ・みやこ秋まつり手踊り練習	コーディネーター9名 交流サポーター等ボランティア11名
9	2日(月)19:00-20:30 9日(月)19:00-20:00 14日(土)11:00-12:00 30日(月)19:00-20:00	4	市民交流センター	18	個別対応	※受講者の要望に合わせた個別対応(例:日本語能力試験勉強、テキスト利用初級日本語) ・みやこ秋まつり手踊り練習	コーディネーター9名 交流サポーター等ボランティア10名
10	5日(土)11:00-12:00 7日(月)19:00-20:00 28日(月)19:00-20:00	3	市民交流センター	10	個別対応	※受講者の要望に合わせた個別対応(例:日本語能力試験勉強、テキスト利用初級日本語、会話) ・今月の歌:轍	コーディネーター7名 交流サポーター等ボランティア10名
11	9日(土)11:00-12:00 18日(月)19:00-20:00 25日(月)19:00-20:00	3	市民交流センター	13	個別対応	※受講者の要望に合わせた個別対応(例:テキスト利用初級日本語、会話、こども新聞読解) ・今月の歌:轍 ・9日:にほんご広場・フォトコン写真講座	コーディネーター6名 交流サポーター等ボランティア7名
12	2日(月)19:00-20:00 9日(土)11:00-12:00 16日(月)19:00-20:00 23日(月)19:00-20:00	4	市民交流センター	24	個別対応	※受講者の要望に合わせた個別対応(例:テキスト利用初級日本語、会話、こども新聞読解) ・今月の歌:小さな恋のうた ・9日:にほんご広場・フォトコン発表会、審査 ・23日:にほんご広場・フォトコン授賞式、忘年会	コーディネーター10名 交流サポーター等ボランティア19名
1	6日(月)19:00-20:00 20日(月)19:00-20:00 27日(月)19:00-20:00	3	市民交流センター	16	個別対応	※受講者の要望に合わせた個別対応(例:テキスト利用初級日本語、会話、こども新聞読解) ・もじぴったん(日本語スクラブルゲーム)	コーディネーター6名 交流サポーター等ボランティア14名
2	3日(月)19:00-20:00 8日(土)11:00-12:00 17日(月)19:00-20:00	3	市民交流センター	17	個別対応	※受講者の要望に合わせた個別対応(例:テキスト利用初級日本語、会話、こども新聞読解) ・スピーチコンテスト準備	コーディネーター7名 交流サポーター等ボランティア16名
3	※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止						

【主な活動】



受講者の希望に沿った個別対応



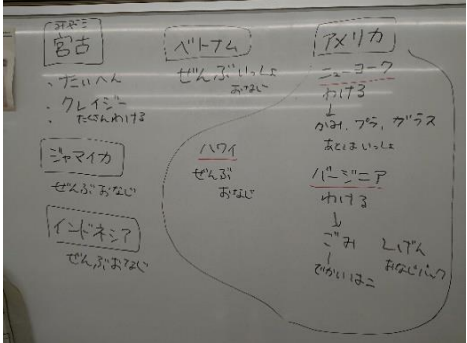
教室の最後にみんなで取り組む
ゲームなど
(やさしい日本語ニュース
聞き取りゲーム中)



にほんごスピーチコンテスト原稿作成

教室の名称		にほんご広場							
外国人参加者について		[国籍]アメリカ、ベトナム、インドネシア、中国、ジャマイカ、フィリピン [属性]ALT、日本人の配偶者、技能実習生等			参加者数 (内 外国人数)		92名 (53名)		
開催時間数		総時間 7時間			内訳 1時間 × 4回 + 1.5時間 × 2回				
目標		・日常生活にかかわるテーマを設定し、日常の困りごとの解決に寄与すること。 ・併せて、関連した日本語を身につけること。							
実施内容									
回数	開講日時	時間数	場所	参加者数	内容	授業概要		内訳	
1	6月24日(月)19:00-20:00 ※日本語教室「さくら」時間内	1	市民交流センター	13	ごみの出し方研修 「どうわける？」	・アイスブレイク:間違い探しゲーム ・グループワーク(ごみ分別辞典を確認、ごみカレンダーを確認、会話例の練習)		外国人7名、日本人6名(スタッフ含む)	
2	11月3日(日)13:30-15:00	1.5	市民交流センター	17	災害時研修 「防災リュックになにを入れる？」	・導入:台風19号を振り返る ・グループワーク:防災リュックに入れるもの ・発表		外国人6名、日本人11名(スタッフ含む)	
3	①11月9日(土)11:00-12:00 ②12月7日(土)11:00-12:00 ③12月23日(月)19:00-20:00 ※日本語教室「さくら」時間内	3	市民交流センター	31	第1回 Cool!MIYAKO-jin (みやこ人) フォトコンテスト	①写真講座(人を被写体にする) ②発表会・審査 ③授賞式		①5人(外国人2、日本人3) ②9人(外国人3、日本人6) ③17人(外国人8、日本人9)	
4	1月12日(日)13:30-15:00	1.5	市民交流センター	31	書き初め研修 「書を楽しもう」	・導入:道具の説明、手本 ・書道体験		外国人9名、日本人7名、高校生13名、顧問2名	

【主な活動】



ごみの出し方研修
（「あなたの国ではどうしますか？」を確認）



災害時研修
（グループごとにディスカッション）



災害時研修
（グループで話したことを発表・共有）



第1回Cool！MIYAKO-jinフォトコンテスト
（発表会）



第1回Cool!MIYAKO-jinフォトコンテスト
（授賞式）

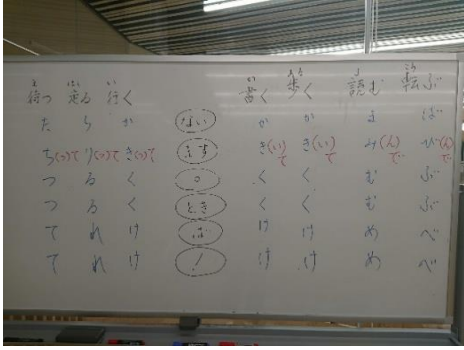


書き初め研修
（作品の前で集合写真）

(3) その他関連する取組

取組名称	実施期間	内容
交流サポーターの会	5月～8月 (全10回)	「市民参加による国際交流・多文化共生、生活者としての外国人のための日本語教育」の担い手として活動するボランティアの確保、育成を図るもの。 【内容】(全10回、1回30分程度) 5/20(月):「～ので」「～から」の違い 5/27(月):学習支援内容の振り返り 6/3(月):日本語教室について、「そのうち」「いまに」の違い、「と」「なら」「ば」「たら」の違い 6/8(土):現在形＝未来形「ます」 6/24(月):授業の発話比率(指導者<学習者、発表させる) 7/8(月):学習支援内容の振り返り 7/13(土):学習支援内容の振り返り 7/22(月):学習支援内容の振り返り 8/24(土):学習支援内容の振り返り 8/26(月):学習支援内容の振り返り、動詞の活用
宮古市職員研修 「外国人対応とやさしい日本語」	6月18日(火)	宮古市職員対象の研修として、「外国人対応とやさしい日本語」を実施。 講師:小向博子 受講者:27名
第35回みやこ秋まつりパレード 参加	9月14日(土)	在住外国人に日本文化(浴衣、日本の歌や踊り)や宮古のイベントを知ってもらうほか、他の参加者との交流が増えることで、宮古での生活が過ごしやすく、楽しくなることを目的とした取り組み。 8月、9月上旬の日本語教室「さくら」で、手踊り練習を行い、日本語教室とイベントを連携させた。
Tristan's chat room	10月～2月 (全9回)	中学生、高校生等学生を対象としたネイティブの英語話者とのコミュニケーションを楽しむ取り組み。※日本語教室参加者発案。 日本語教室「さくら」の前に行くことで、chat roomに参加した学生が「さくら」にも参加するようになった。

【主な活動】



交流サポーターの会 (動詞の活用)



みやこ秋まつりに参加
(宮古市役所チームとして)



Tristan's chat room
(日本語教室参加者発案。
「さくら」にも続けて参加)

5. 今年度事業全体について

進捗状況	新型コロナウイルス感染症の影響により3月に中止した取組があったものの、概ね予定どおり進めることができた。年間を通した日本語教室の開催スケジュールについて、一定の形が作られた。
成果	・市民交流センターを会場に、日本語教室「さくら」、にほんご広場の定期開催につながった。運営が円滑化してきている。 ・日本人の配偶者や技能実習生の参加が増え、多様な国籍、背景を持つ外国人が参加するようになった。 ・高校生、短大生が、交流サポーター等ボランティアとして日本語教室「さくら」に参加するようになった。
地域の関係者との連携による効果	・会場として市民交流センター（市役所との複合施設）を活用することで、市役所を身近に感じられるよう意識付けが図られた。 ・にほんご広場の講師として地元の高校の書道部を招くなど、若い世代とのつながりを持つことができた。
コーディネーターの主な活動	①ニーズの調査(0H) ②体制整備のための調整(23.5H) ③人材育成のための調整(13H) ④日本語教室開設及び運営のための調整(113H) ⑤教材作成に向けた調整(1.5H) ⑥その他(0H)（具体的な内容： — ）
アドバイザーの主な助言	・宮古のような市域面積が広い地域は、web教材も有効であること。 ・（参加者が定着しないという課題に対して）あまり気にしないで良い、「さくら」のように気軽に自分の都合で参加できる場が定期的に存在していることが大事で、参加する可能性のある人を増やしていくことを考えること。流動性があるのは仕方ないことと割り切ること。 ・学習者ニーズ把握の際は、日本語学習についてだけでなく、得意なこと、地域でやってみたいことを聞き取ることで、地域で活躍できる場面につなげられること。 ・「あなたの国ではどうしているか？」という参加者への質問は、相互理解につながるよい投げかけであること。 ・災害時こそ情報収集が必要で日本語学習が必要だと感じる機会となる。経験が薄れないうちに日本語学習につなげること。 ・教室にこない人、教室の存在を知らない人とどのように関係を作っていくか、技能実習生受入事業所とどのようにつながりを作っていくか等すそ野を広げること、ネットワークの基盤を作ることが次の課題。（市の既存事業に参加し、周知するなど工夫すること）
今後の課題	・国際交流や外国人対応に興味関心のある人だけでなく、幅広く日本語教室の存在を知ってもらう必要がある。 ・日本語教室を継続させるために、交流サポーター等の学習支援ボランティアとして関わる人たちを増やしていく必要がある。 ・ボランティアで参加する人の中から、日本語指導に興味を持ちスキルアップを目指す人材を発掘養成する必要がある。 ⇒以上の点について周知方法を工夫しながら取り組んでいく必要がある。
今後の予定	・定期開催の日本語教室「さくら」、テーマ設定型のにほんご広場を2本の柱として、外国人が日本語を学習する、習得する場だけでなく、地域の活動に参加する第一歩となり、地域とのつながりを築く場としても機能させていく。 ・日本語教室「さくら」、にほんご広場について、市が主催として実施する。（日本語教室に係る事業費の計上） ・市広報の活用のほか、市や他団体の既存事業に参加することで、普段、国際交流や外国人対応に意識のない人にも知ってもらうよう周知していく。 ・地元の高校、短大と連携し、高校生や短大生の参加を促す。 ・技能実習生受入事業所へ働きかけを継続し、実習生本人だけでなく実習生担当者の参加を促す。

本件担当 : 宮古市国際交流協会 事務局